

初等音楽テキスト ピアノ編



兵庫教育大学学校教育学部

目 次

Step 1	両手でひいてみよう その1 …… page 2
Step 2	両手でひいてみよう その2 …… page 9
Step 3	主要三和音をマスターしよう …… page18
Step 4	音階で自由自在 …………… page31
Step 5	いろいろな曲をひいてみよう …… page34

Step1

両手でひいてみよう その1

ト音部譜表のよみ方・ポジションを変えない5指



使用する音と指使い



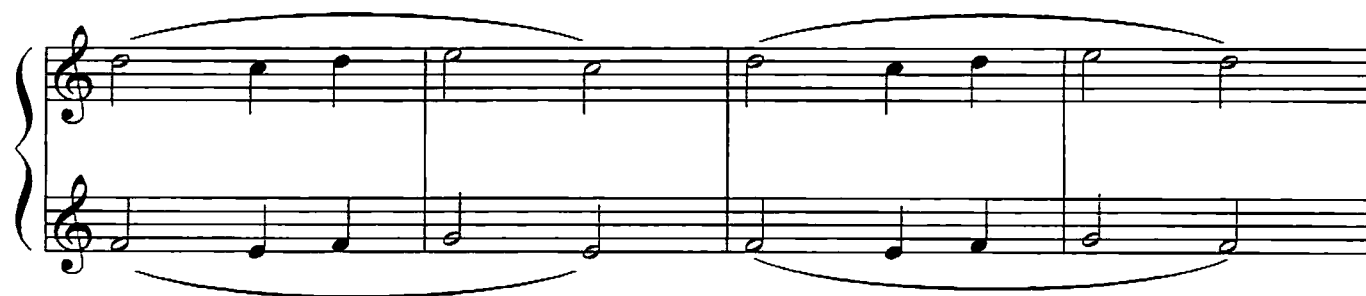
バイエル No.7

1.

演奏のポイント

- ・自然にまるくした手の形で弾きましょう。指の関節をしっかりとめてください。
- ・レガート奏法で、音から音へ、よくつなぎましょう。
- ・1音ずつ、ゆっくりと弾きましょう。

2.



演奏のポイント

- ・左右の音は、6度（音程）で平行の動きをします。響きをよく聞いて弾きましょう。
- ・ — のついた音のまとまりを、フレーズといいます。ひとつのフレーズの中では音をよくつないで弾きましょう。

3.

A musical score for the song "The Rose Tree". It consists of two staves. The top staff is in treble clef with a key signature of one flat (B-flat) and a common time signature (C). It contains a melody of eighth and quarter notes, with a final measure marked with a circled 1. The bottom staff is in bass clef with a key signature of one flat and a common time signature. It contains a bass line with a whole note in the first measure, a whole note in the second measure, and a half note in the third measure, followed by a four-measure rest. The score is divided into four measures by vertical bar lines.

A musical score for the song 'The Rose Tree'. It consists of two staves. The top staff is in treble clef and contains a melody of eighth notes: C4, D4, E4, F4, G4, A4, B4, A4, G4, F4, E4, D4, C4. The bottom staff is in bass clef and contains a bass line of half notes: C3, F2, G2, A2, B2, C3. The key signature has one flat (Bb) and the time signature is 4/4. The melody is marked with a slur and a fermata over the final note.

The second system of the exercise consists of two staves. The treble staff begins with a half note G4, followed by a quarter note A4, then a quarter note B4, and a quarter note C5, all beamed together. This is followed by a half note D5. A slur covers the first four notes, with a circled '2' above the D5. The bass staff begins with a half note G3, followed by a quarter note F3, then a quarter note E3, and a quarter note D3, all beamed together. This is followed by a half note C3. A slur covers the first four notes, with a circled '3' above the G3. The system concludes with a final measure in the treble staff containing a half note G4, and a final measure in the bass staff containing a half note G3.

A musical score for the song "The Rose Tree". It consists of two staves. The top staff is in treble clef and contains a melody of eighth notes, with a slur over the first two measures. The bottom staff is in bass clef and contains a bass line of half notes. The key signature has one flat (B-flat), and the time signature is 4/4. The music is divided into four measures by vertical bar lines.

演奏のポイント

- ① ・・・はポルタートといい、音を柔らかく切り離して弾きます。
- ② 左手は、うちなおしますが、右手は、切れないよう、つなぎましょう。
- ③ a a' b a'の形式ですので、bにあたるここからの4小節は、少し気分を変えて弾きましょう。

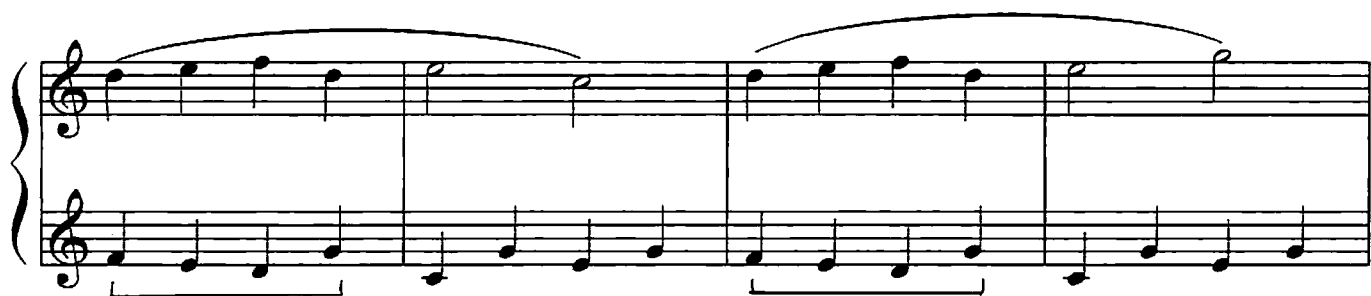
4.

演奏のポイント

・この曲は、左手が伴奏になります。右手よりも静かに、レガートで弾きましょう。

- ① 4拍目にあたるこの音は、強くならないようにしましょう。
- ② 右手は打ちなおしますが、左手は切れないようにしましょう。
- ③ ここからの4小節を、しっかり弾きましょう。

5.



演奏のポイント

- ・左手は伴奏ですが、 の部分は和音（分散和音）ではなく、線的な動きをしています。
この部分は伴奏と考えずに、左右とも動きをよく聞いて、しっかり弾きましょう。
- ・a a' b a'の形式に気をつけましょう。

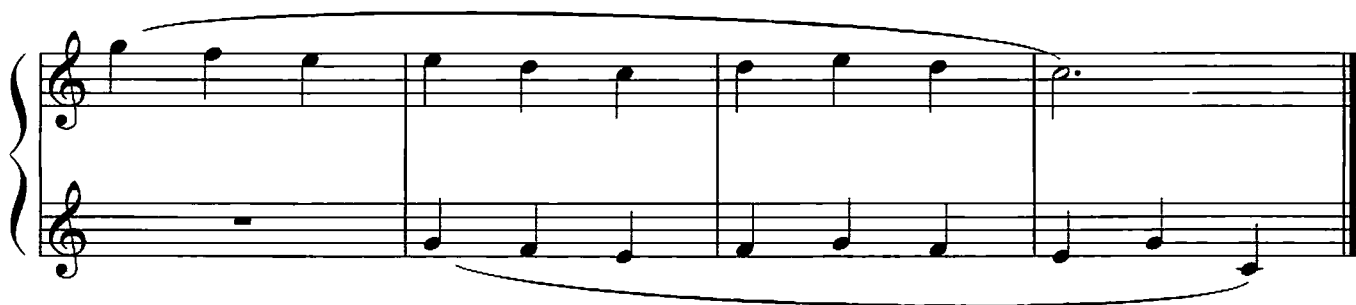
6.

The image shows three systems of piano music in 3/4 time. Each system consists of a grand staff with a treble and bass clef. The first system has a measure rest in the treble. The second and third systems have continuous eighth-note patterns in both hands, with slurs indicating phrasing. The third system ends with a double bar line.

演奏のポイント

- ・ 1 拍目の 2 分音符は、重さをかけるようにしっかり弾きましょう。
- ・ 左手の動きに気をつけましょう。
- ・ 曲の形式を感じ取って、自然な強弱をつけてみましょう。

7.



演奏のポイント

① 右手を模倣する左手をよく聞きましょう。

両方とも最初のソの音に手の重さをかけるようにして、丁寧に弾きましょう。

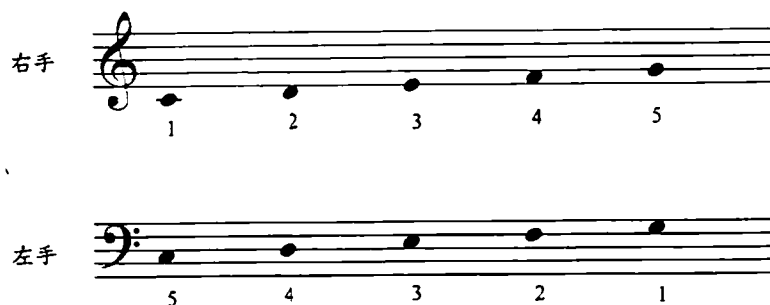
② ここで左右の動きが入れ替わっていることに気付きましょう。

Step2

両手でひいてみよう その2

大譜表のよみ方・ハ長調 ト長調 ヘ長調
ポジションの移動を伴う楽曲とその指づかい

ハ長調 (C dur)
使用する音と指使い



エチュード
G.グムベルト



演奏のポイント

- ・ 4分音符はスタッカートで弾きます。スタッカートは指先をつかむように、そして手首を軽くはずませて弾きましょう。
- ・ メロディーが手から手へうつっていきますので、手の受け渡しの動作を感じて弾きましょう。
- ・ 強弱をつけましょう。

9. ①

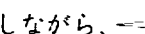
②

②

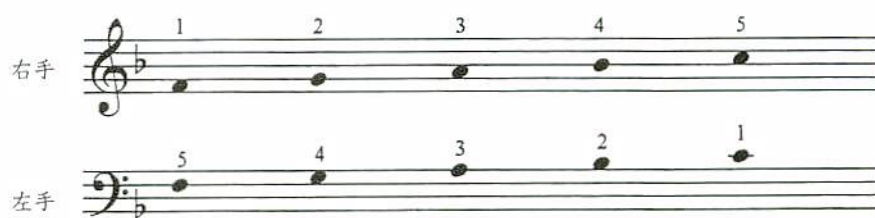
演奏のポイント

① 符点音符をリズムよく弾きましょう。



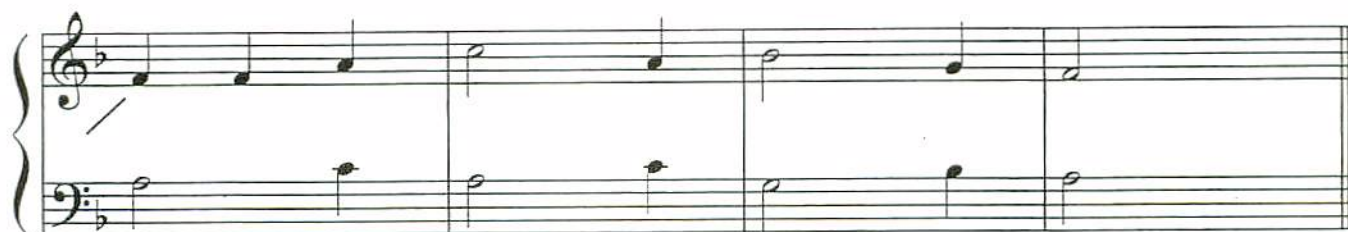
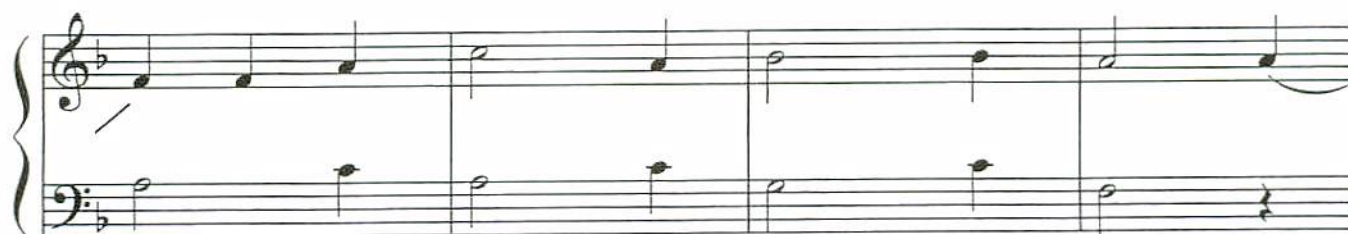
② 4分音符が強くなりすぎないように注意しながら、 (クレッシェンド) しましょう。

へ長調 (F dur)
使用する音と指使い



11.

むかしのおどり
R.ベース

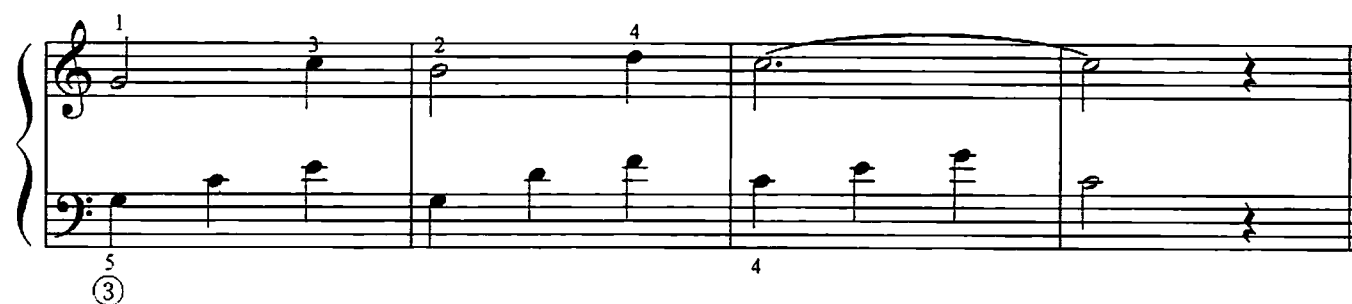
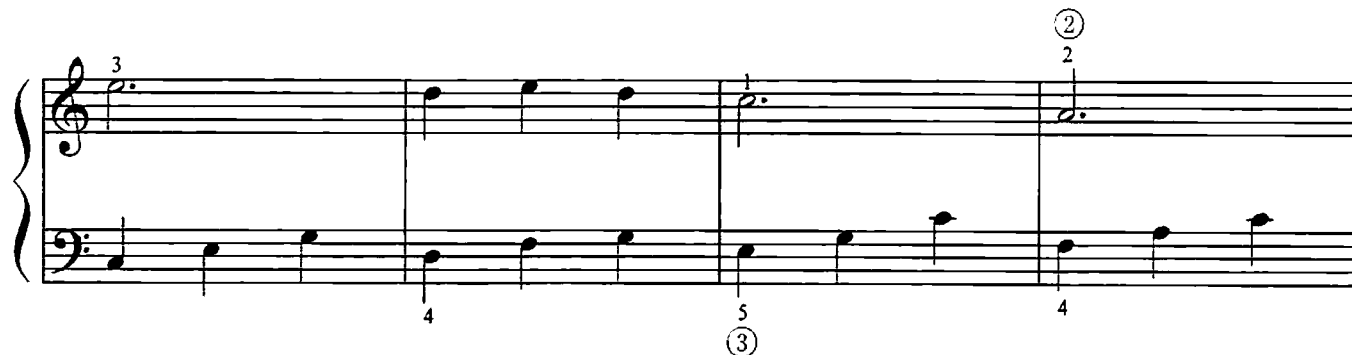


演奏のポイント

- ① 左手の最初のドの音は、アウフタクトといいます。右手のファに受け渡すように弾きましょう。
1拍目に強さがあります。
- ② ここから4小節は右手と左手の対話のように弾きます。
- ③ ♯(フェルマータ) にむかって少し遅くして、この2分音符を充分のばします。

ポジションの移動

ここからは使用する音が増えます。下の譜表を参照して、音をよんで弾きましょう。
手の位置（ポジション）を動かす必要がありますので、指使いに充分注意して下さい。



演奏のポイント

- ① 同じ5の指を、手首をらくにしてスムーズに上にもっていきましょう。
- ② 1の指の上を2の指がこえます。2をまるくしましょう。
- ③ 手を縮めて、5の指をおくっていきます。

13. バーナムより

演奏のポイント

- ・ポジションを横にずらす練習です。スタッカートですので手首をらくにして弾きましょう。
- ① 16分音符は、指をあげすぎず、1から5、5から1へ重さを送っていくように弾きます。
- ② 1小節目と指使いが違うので注意。

14.

① ②

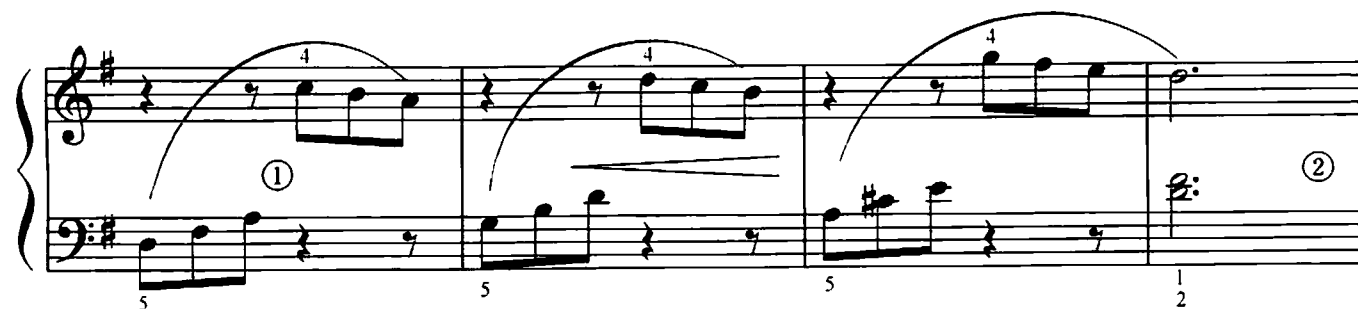
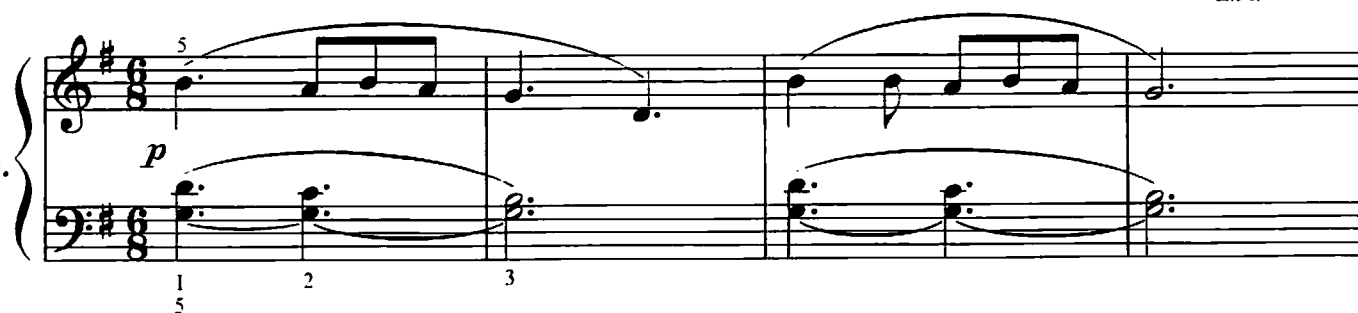
演奏のポイント

① オクターヴをとるため、指を上げます。

指使いに注意。(指使いは自分の弾きやすいように変えてもよい。)

② 音高の違う2つの音が — で結ばれている時は、あとの音を軽く切ります。

15.



演奏のポイント

- ① 手を受け渡すように、しなやかな手の動きで弾きましょう。
- ② なるべく音の長さいっぱいのにばして、手首の力を抜いて、次の小節に入ること。
- ③ ここも手首を柔らかくあげるようにしながら、移動しましょう。

指のトレーニング

指の独立と手首の柔軟性を得るため、次の課題を続けて練習しましょう。
どの課題もゆっくりと弾くこと。繰り返しは何度してもかまいません。

- (1) 指を第1関節からよく動かして、キーをしっかりと押す。



- (2) アクセントのついた音を、高めにあげた指でしっかりうちおろす。



- (3) 3つ目の音で手首の力を柔らかく抜くようにして、休符を感じ、1つ目の音に再びおろす。



- (4) 手首をおろして重さかける音 (↓) と、その手首をあげながら力を抜いて弾く音 (↗) の弾き分け



- (5) 3通りの指使いで、音をつないでなめらかに弾く。



Step3

主要三和音をマスターしよう

ハ長調・ト長調・ヘ長調のⅠ.Ⅳ.Ⅴの和音
三和音による伴奏付け

ハ長調
主要三和音

Ⅰ
主和音
(トニカ)

Ⅳ
下属和音
(サブドミナント)

Ⅴ₇
属和音(属七和音)
(ドミナント)

Ⅰ
基本形
第一転回形
第二転回形

Ⅳ
基本形
第一転回形
第二転回形

Ⅴ₇
基本形
第一転回形
第二転回形
第三転回形

1 3 5
1 2 5
1 3 5
(2) 1 4 5
1 3 5

このカデンツ（終止形）を何度も弾き、次の曲に移りましょう。

16.

Ⅰ
Ⅳ（第二転回形）

Ⅴ₇（第一転回形）

ト長調
主要三和音

I IV V7

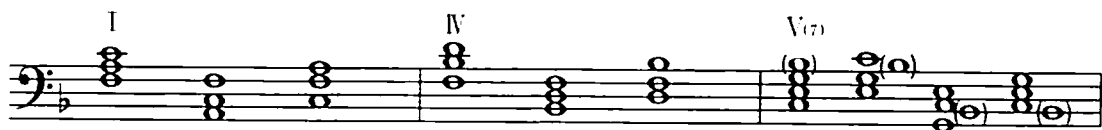
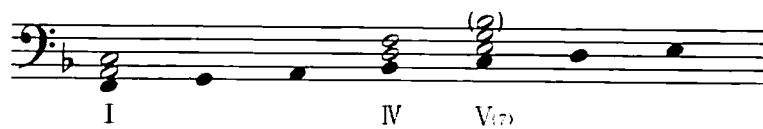
I IV V7

カデンツ

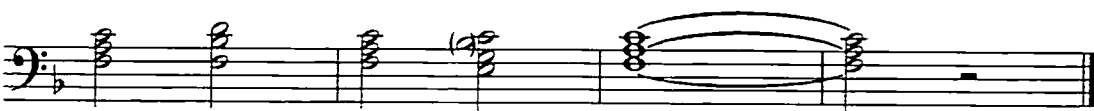
17.

(16番をト長調に移調したものです。)

へ長調
主要三和音



カデンツ



(16番をへ長調に移調したものです。)

三和音の使い方、伴奏音型のバリエーション

黒人霊歌

19a

20a

演奏のポイント

・左手の和音は、短くならないよう、充分にのばしましょう。

☆下のような伴奏型でも弾いてみましょう。音の切り方は2通りあります。

20b

伴奏づけの応用練習

21.

・伴奏の形をいろいろ変えて弾いてみましょう。



22. *mf* FOLK SONG

1 3 4 2 3

3 5 1 2 2 5

2 1 3 5 4 3 2 1

f

4

2 4 5 1

p *mf*

2 1

3 2 1 3 5 2

Allegro ♩ = 104

「マザーグースのうた」より

23. *mf*

3 1 5 4 2 1

3 1

2

4 1 2 4 2 *rit.* *p*

24. *mf*

5 1/2 4 1/2 5 1/3

5 1/3 5 1/3 1/2

f *mf*

1/2

4 1/2 5 5 1/2 4 5 1/3 1/2

f *mf*

おおスザンナ
S. フォスター

25.

Measures 25-28 of the piano score. The treble clef staff features a melodic line with a slur over measures 25-28. Fingering numbers 5 and 4 are indicated above the first two notes of measure 25. The dynamic *mf* is marked in measure 25. The bass clef staff provides harmonic support with chords and single notes.

Measures 29-32 of the piano score. The treble clef staff continues the melodic line with a slur. Fingering numbers 5 and 4 are shown above the first two notes of measure 29. The bass clef staff continues with harmonic accompaniment.

Measures 33-36 of the piano score. The treble clef staff has a slur over measures 33-36. Fingering numbers 3, 5, 4, 2, 1, and 2 are indicated above the notes. The dynamic *f* is marked in measure 33, and *mf* is marked in measure 36 with a decrescendo hairpin. The bass clef staff continues with harmonic accompaniment.

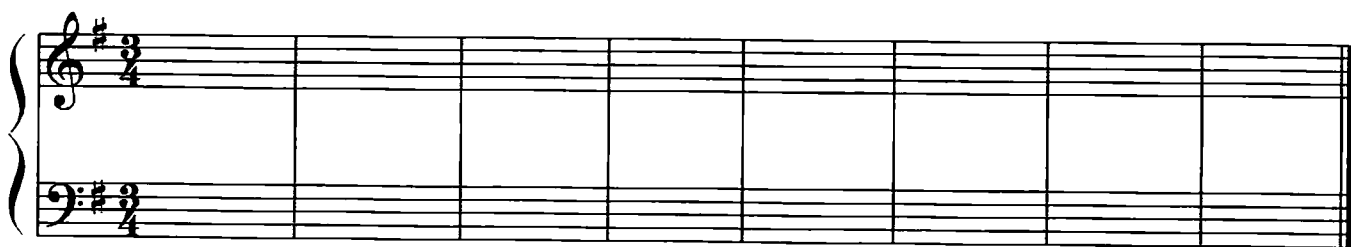
Measures 37-40 of the piano score. The treble clef staff has a slur over measures 37-40. Fingering numbers 5 and 4 are shown above the first two notes of measure 37. The bass clef staff continues with harmonic accompaniment.

シューベルトの子守歌

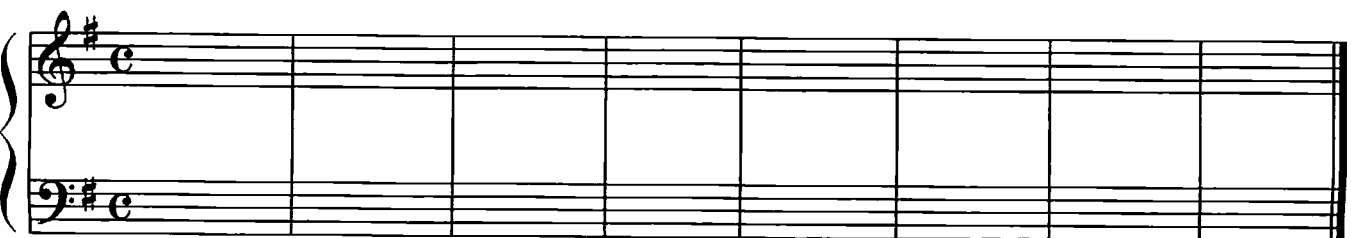
26. *p*

伴奏づけ課題

1. まずメロディーを、指使いに注意して初見で弾きましょう。
2. 次に主要三和音を書き込み、伴奏を作りましょう。
3. 何度も練習した後、1音あげてト長調に移調し、記譜しましょう。



次の課題は、後半4小節にメロディを創作し、同じように伴奏づけと移調を行います。



よく知られたメロディーに、和音で伴奏をつけましょう。



和音で伴奏をつけたもの（和声的な音楽＝ホモフォニー）と、
次のように両手が線的に動くもの（対位的な音楽＝ポリフォニー）を弾き比べてみましょう。



Step4

音階で自由自在

音階(スケール)を弾く時に使う、指こえ、指くぐらせのテクニックは、ピアノを自在に弾きこなす為に欠く事のできないものです。次の予備練習を何度も練習しましょう。

右手

指くぐらせ 指こえ 指くぐらせ 指こえ 指くぐらせ 指こえ 指くぐらせ 指こえ

左手

指くぐらせ 指こえ 指くぐらせ 指こえ 指くぐらせ 指こえ 指くぐらせ 指こえ

27.

バイエルより

2オクターヴにも挑戦してみましょう。左右の指使いに注意して下さい。

ト長調の音階

28. バイエルより

2 オクターヴ

へ長調の音階

バイエルより

29.

2 オクターヴ

音階演奏上のポイント

- ・指こえ、指くぐらせは、3、4の指をまるい形に保って、手首を柔らかく、少しひねるようにして、スムーズに行いましょう。
- ・音の大きさがそろうよう注意。特にくぐらせた1の指は、音が飛び出してしまうか、又は反対に打ちそこねて小さくなります。
手をかたくせず、はっきり打ちましょう。
- ・黒鍵を弾く時は、手が急に向うに行かないよう、その前から白鍵の中程を弾いておいて、なめらかに黒鍵に移行します。
全体にレガートを心がけましょう。

Step5 いろいろな曲をひいてみよう

ここからは、今までに学んだ事を生かして、いろいろな楽曲を弾きます。

楽曲は概ね、作曲家の年代順に並べてあります。

それぞれの曲の説明を読んで、無理のない曲から練習しましょう。

- No.30 J.クリーガー (1651~1735)
メヌエットは3拍子のゆったりした踊りです。cantabile (カンタービル 歌う様に) の指示の通り、優雅に弾きます。 ♪ (トリル) は省いても構いません。
- No.31 G.P.テレマン (1681~1767)
ジークは速いおどりで、 $\frac{6}{8}$ 拍子が多いです。活発に弾きましょう。
3つの8分音符は  または  の様に弾く事ができます。
- No.32 D.G.テュルク (1750~1813)
アリエッタは「小さなアリア(歌)」という意味です。強弱をつけてきれいに弾きましょう。
- No.33 L.v.ベートーヴェン (1770~1827)
有名なベートーヴェンは、この様な小品も書いています。レントラーという舞曲です。
あまり速くなく、よいリズムでいきいきと弾きましょう。
- No.34 C.チェルニー (1791~1857)
チェルニーは、ベートーヴェンの弟子で、教育用の曲を沢山作りました。この曲は音の長さを保つ練習です。
また、ペダルの練習にもなります。ペダルは、書いてある様に、拍の頭ではなして踏みましょう。少しずれて踏み込む事になるこのペダリングを、シンコペートペダルといいます。音が濁らない様、気をつけること。
- No.35 F.バイエル (1803~1863)
~37 バイエルピアノ教則本からの3曲です。右手と左手のバランス、音階の滑らかさ、形式と強弱、等に気をつけて弾きましょう。
- No.38 C.グルリット (1820~1910)
左手を歌わせる曲です。右手は軽く、左手に響きを添える様に弾きましょう。
- No.39 R.シューマン (1810~1856)
描写的な標題の付いた曲です。カッコウの鳴き声を真似た音型も出てきます。情景を思い浮かべて弾きましょう。
- No.40 この曲もペダルを踏みます。踏み方はNo.34と同じです。所々に2小節にわたるペダルが出てきますが、これはシューマン自身の指示ですので、試してみましょう。フレーズは概ね4小節がひとつです。
- No.41 B.バルトーク (1881~1910)
No.41~44は、近現代の作品です。この曲は同じ音でありながら、微妙に形を変えてゆく左手が特徴的です。
- No.42 D.ショスタコーヴィチ (1906~1975)
子どものための曲ですが、元気よく明るく、というだけでなく、少し諧謔的に弾いてみましょう。打ちつける様なタッチも使って下さい。
- No.43 W.L.ギロック
ギロックは現代の作曲家ですが、子どものために、いろいろな時代の様式を使って曲を書きました。この曲は後期ロマン派、といったところでしょうか。ペダルを効果的に使ってespressivo (表情豊か) に弾きましょう。
- No.44 草野次郎 (1955~)
芸術系教育講座教授の草野先生が、このテキストのために書いてくれました。いろいろな調の表情を、弾き分けて下さい。難しそうに見えますが、同じパターンのリズムが繰り返されますし、馴染みやすい、美しいメロディーなので、是非挑戦してみてください。

メヌエット

J. クリーガー

30.

mf cantabile

The first system of musical notation for the Minuet. It consists of a grand staff with a treble and bass clef. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 3/4. The music begins with a treble clef and a bass clef. The treble staff has a melody starting with a quarter note G4, followed by a quarter note A4, and a half note B4. The bass staff has a melody starting with a quarter note F#3, followed by a quarter note G3, and a half note A3. The first measure is marked with a '4' above the treble staff and a '2' below the bass staff. The second measure is marked with a '4' above the treble staff and a '4' below the bass staff. The third measure is marked with a '1' above the treble staff and a '3' below the bass staff. The fourth measure is marked with a '3' above the treble staff and a '1' below the bass staff. The fifth measure is marked with a '3' above the treble staff and a '1' below the bass staff. The sixth measure is marked with a '1' above the treble staff and a '3' below the bass staff.

The second system of musical notation for the Minuet. It consists of a grand staff with a treble and bass clef. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 3/4. The music begins with a treble clef and a bass clef. The treble staff has a melody starting with a quarter note G4, followed by a quarter note A4, and a half note B4. The bass staff has a melody starting with a quarter note F#3, followed by a quarter note G3, and a half note A3. The first measure is marked with a '1' above the treble staff and a '2' below the bass staff. The second measure is marked with a '2' above the treble staff and a '5' below the bass staff. The third measure is marked with a '3' above the treble staff and a '1' below the bass staff. The fourth measure is marked with a '1' above the treble staff and a '1' below the bass staff. The fifth measure is marked with a '3' above the treble staff and a '1' below the bass staff. The sixth measure is marked with a '1' above the treble staff and a '1' below the bass staff.

The third system of musical notation for the Minuet. It consists of a grand staff with a treble and bass clef. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 3/4. The music begins with a treble clef and a bass clef. The treble staff has a melody starting with a quarter note G4, followed by a quarter note A4, and a half note B4. The bass staff has a melody starting with a quarter note F#3, followed by a quarter note G3, and a half note A3. The first measure is marked with a '1' above the treble staff and a '3' below the bass staff. The second measure is marked with a '2' above the treble staff and a '2' below the bass staff. The third measure is marked with a '1' above the treble staff and a '2' below the bass staff. The fourth measure is marked with a '4' above the treble staff and a '4' below the bass staff. The fifth measure is marked with a '2' above the treble staff and a '4' below the bass staff. The sixth measure is marked with a '4' above the treble staff and a '4' below the bass staff. The dynamic marking *p* is present in the fourth measure.

The fourth system of musical notation for the Minuet. It consists of a grand staff with a treble and bass clef. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 3/4. The music begins with a treble clef and a bass clef. The treble staff has a melody starting with a quarter note G4, followed by a quarter note A4, and a half note B4. The bass staff has a melody starting with a quarter note F#3, followed by a quarter note G3, and a half note A3. The first measure is marked with a '4' above the treble staff and a '2' below the bass staff. The second measure is marked with a '1' above the treble staff and a '3' below the bass staff. The third measure is marked with a '3' above the treble staff and a '1' below the bass staff. The fourth measure is marked with a '1' above the treble staff and a '2' below the bass staff. The fifth measure is marked with a '1' above the treble staff and a '2' below the bass staff. The sixth measure is marked with a '2' above the treble staff and a '2' below the bass staff.

ジーク

Vivace

G.P. テレマン

31. *f* *p*

4 5 1 2 1

1 1 2 4 3 1 2

f *p* *f*

3 1 2 1 5 1 3 2 1 3

2 1 3 1 2 1 1 4 1 3

アリエッタ

D.G.テュルク

32. *mp*

cresc. *f*

p *cresc.*

f

ドイツのダンス

L.v. ベートーヴェン

33. *f*

mf

f

Moderato ♩ = 92

リトルピアニスト No.43
C.ツェルニー

34. *p*

Moderato

バイエル No.88

35.

First system of the musical score. The right hand (treble clef) features a melody with slurs and fingerings (3, 1, 3, 1, 2). The left hand (bass clef) plays a steady eighth-note accompaniment. The tempo is marked *Moderato* and the expression is *dolce*.

Second system of the musical score. The right hand continues the melody with slurs and fingerings (3, 1, 3, 2 1, 4, 2 1, 1). The left hand continues the eighth-note accompaniment.

Third system of the musical score. The right hand has a dynamic change from *f* (forte) to *p* (piano) and includes an accent (^) on the final note. The left hand continues the eighth-note accompaniment.

Fourth system of the musical score. The right hand features a *pp* (pianissimo) dynamic marking. The left hand continues the eighth-note accompaniment.

Fifth system of the musical score. The right hand includes first and second endings, with a *f* (forte) dynamic marking. The left hand continues the eighth-note accompaniment.

Allegretto

バイエル No.91

36. *dolce*

p

cresc. *f* *dim.* *p*

f

4

5

Adagio

バイエル No.99

37.

左手のワルツ

Moderato

C. グルリット

38.

2 5

poco marcato

1 5

1 1

2 1 1 5

First system of a musical score. The treble clef staff contains four measures of chords with fingerings 5, 3, 1 and 4, 3, 1. The bass clef staff contains a single half note with a fermata, marked with a piano (*p.*) dynamic. A decrescendo hairpin is positioned over the bass staff.

5

Second system of a musical score. The treble clef staff contains four measures of chords with fingerings 5, 3, 1 and 4, 3, 1. The bass clef staff contains a single half note with a fermata, marked with a piano (*p.*) dynamic. A decrescendo hairpin is positioned over the bass staff.

5

Third system of a musical score. The treble clef staff contains four measures of chords with fingerings 5, 3, 1 and 5, 2, 1. The bass clef staff contains a single half note with a fermata, marked with a piano (*p.*) dynamic. A decrescendo hairpin is positioned over the bass staff.

3

Fourth system of a musical score. The treble clef staff contains four measures of chords with fingerings 5, 2, 1 and 4, 2, 1. The bass clef staff contains a single half note with a fermata, marked with a piano (*p.*) dynamic. A decrescendo hairpin is positioned over the bass staff. The word *decresc.* is written in the treble staff.

1

5

1

5

「子どものためのアルバム」より
かくれているカッコウ

Immer sehr leise (いつもとても軽く)

R. シューマン

39. *pp*

1. 2. *p*

3. 2. 1. 3. *pp*

1. 2.

「子どものためのアルバム」より
小さな練習曲

Leise und sehr egal zu spielen

R. シューマン

40.

The musical score is for a piano exercise, numbered 40, by Robert Schumann. It is in G major (one sharp) and 6/8 time. The score consists of five systems, each with a treble and bass staff. The first system begins with a treble clef and a key signature of one sharp. The melody in the right hand is marked with a '4' and a slur, indicating a four-measure phrase. The bass line consists of eighth notes. The second system continues the melody and bass line. The third system introduces a triplet in the bass line. The fourth system continues the melody and bass line. The fifth system concludes the piece with a final chord in the right hand and a triplet in the bass line. The score includes various musical notations such as slurs, ties, and dynamic markings like 'p' and 'f'.

This page contains six systems of musical notation for a piano piece. Each system consists of a grand staff with a treble clef and a bass clef. The key signature is one sharp (F#). The notation includes various musical elements:

- System 1:** Features a melodic line in the treble with a slur and a 'dimin.' (diminuendo) marking. The bass line has a steady eighth-note accompaniment. Fingerings 5, 4, and 3 are indicated. Pedal marks (* Ped.) are present.
- System 2:** Continues the melodic and accompanimental patterns. Fingerings 5, 4, and 3 are shown. Pedal marks (* Ped.) are present.
- System 3:** Includes more complex fingering, such as 5 3 2 in the treble. Pedal marks (* Ped.) are present.
- System 4:** Shows a change in the bass line's accompaniment. Fingerings 5, 4, and 3 are indicated. Pedal marks (* Ped.) are present.
- System 5:** Continues the melodic development. Fingerings 5, 4, and 3 are shown. Pedal marks (* Ped.) are present.
- System 6:** The final system on the page, ending with a double bar line. It includes a final melodic phrase and a concluding bass line. Pedal marks (* Ped.) are present.

「子供のために」より

B. バルトーク

41.

p dolce

dim.

pp *smorzando*

マーチ

D. ショスタコーヴィチ

42.

This piano score consists of six systems of two staves each (treble and bass clef). The music is in common time (C) and features a variety of dynamics and articulations.

- System 1 (Measures 42-45):** Starts with a piano (*p*) dynamic. The right hand has eighth-note patterns with slurs and fingerings (4, 3, 2, 4, 3, 2, 4, 3, 2, 4, 3, 2). The left hand has a steady eighth-note accompaniment with fingerings (2, 5, 2, 5, 1, 5). Accents (>) are placed on specific notes.
- System 2 (Measures 46-49):** Continues the eighth-note patterns. Dynamics remain piano (*p*). Fingerings and slurs are used to guide the player through the melodic lines.
- System 3 (Measures 50-53):** The dynamic changes to mezzo-forte (*mf*). The right hand features half-note chords and single notes with fingerings (3, 3, 3, 1, 3, 1, 3, 1, 5). The left hand has a similar accompaniment. A crescendo hairpin is shown over measures 52-53.
- System 4 (Measures 54-57):** The dynamic changes to forte (*f*) in measure 54 and then back to piano (*p*) in measure 56. The right hand has half-note chords and single notes. The left hand continues with eighth-note accompaniment. A crescendo hairpin is shown over measures 56-57.
- System 5 (Measures 58-61):** The dynamic is mezzo-forte (*mf*). The right hand has eighth-note patterns with slurs and fingerings (2, 5, 2, 5, 1, 5, 1, 5). The left hand has a steady eighth-note accompaniment with fingerings (2, 5, 2, 5, 1, 5).
- System 6 (Measures 62-65):** The right hand has half-note chords and single notes with fingerings (3, 1, 3, 5, 1, 1, 5, 2). The left hand has a steady eighth-note accompaniment with fingerings (3, 5, 1, 5, 2). A crescendo hairpin is shown over measures 64-65.

荒れ果てた舞踏室

Lamentoso e misterioso $\text{♩} = 50$

W. L. ギロック

43. *espressivo* *mf* *p*

a tempo
p

a tempo

mp *rit.* *m.d.* *m.s.* *smorz.* *m.s.*

1 2 3 4 5 3 1 2 3 4 5 3

転調のための練習曲
 ～近親調転調を中心に～

Moderato ♩ = 54

草野 次郎

44.

The musical score for exercise 44 is written for piano in 6/8 time, marked Moderato (♩ = 54). It consists of four systems of music. The first system is marked *p* and includes fingerings (3, 2, 1, 2, 4, 3, 1, 2) and pedal markings (*Ped, *Ped, *Ped, *Ped, *Ped sim.). The second system is marked *mp*. The third system is marked *p*. The fourth system is marked *mp*. The score features various musical notations including slurs, ties, and dynamic markings.

3 *mf*

1 2 3 1 2 3 1

4 5 4 5 4 5 3 5

3 *mp*

2 1 2 1 3 4 3 2 3

3 4 3 4 5 4 3 2 3

3 *p* *mf*

4 5 5 5 4 5 4 5 4 5

mp *rit.* *meno.* *p* *pp*

5 4 3 4 3 5 4 1 5 2

練習計画表

授業が15回あるとして、おおよその目安を示してあります。各自のレベルに合わせて、自分で計画を立ててみましょう。（8～10週でStep4が終わるのが望ましい。）

回	進度の目安	自身の計画
1	Step1 1. 2.	
2	3. 4. 5	
3	6. 7. Step2. 8	
4	9. 10. 11	
5	12. 13. 14	
6	15. Step3. 16. 17. 18	
7	19. 20. 21	
8	22. 23. 24	
9	25. 26. ドリル	
10	Step4 27. 28. 29	
11	Step5 から適宜・ グレード課題曲の準備	
12		
13		
14		
15		

初等音楽テキスト ピアノ編

発行日	2004年3月31日
発行所	兵庫教育大学芸術系音楽分野 初等音楽テキスト作成委員会
執筆責任者	木下千代 草野次郎
印刷・製本	株式会社 吉本宝文堂